

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバがまだ見られています

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは1月6日に久栗坂沖で0.6個体/m³見られました(図2)。

(2) キヌマトイガイ

ラーバは1月6日に久栗坂沖で10.0個体/m³、野辺地沖で4.7個体/m³、川内沖で51.6個体/m³見られました(図3)。

(3) マボヤ

ラーバは1月6日に久栗坂沖で5.0個体/m³、川内沖で0.8個体/m³、卵は1月6日に久栗坂沖で2.8個/m³見られました(図4)。

(4) その他

アミクサの小枝とオベリア類のクラゲは見られていません。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムサキイガイ	単位: 個体/m ³			
						オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝	マボヤ ラーバ	卵
久栗坂沖	R3.1.6	0.6	0.6	10.0	59.4	0.0	0.0	5.0	2.8
野辺地沖	R3.1.6	0.0	0.0	4.7	9.4	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	R3.1.6	0.0	0.0	51.6	124.2	0.0	0.0	0.8	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

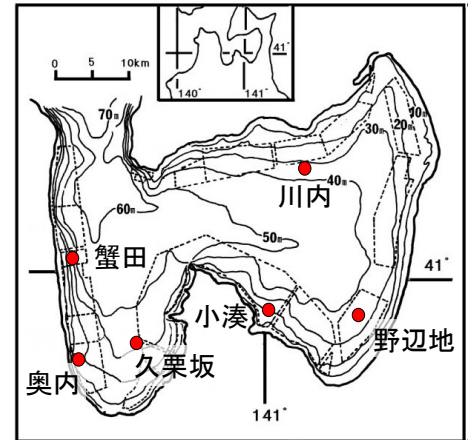


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は4~11℃台に低下しています。

ユウレイボヤの例年のラーバ出現ピークは過ぎています。久栗坂沖で輸卵管に卵を持ったユウレイボヤが見られ、ラーバが出現していることから、**今後も付着する可能性**があります。

キヌマトイガイのラーバ出現数が徐々に増加していることから、今後、**籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加する**ものと思われます。

マボヤのラーバと卵がほとんど見られなくなったことから、今シーズンの**付着は終了**したと思われます。

アミクサ小枝の本格的な出現やオベリア類の付着は今月以降になるものと思われます。

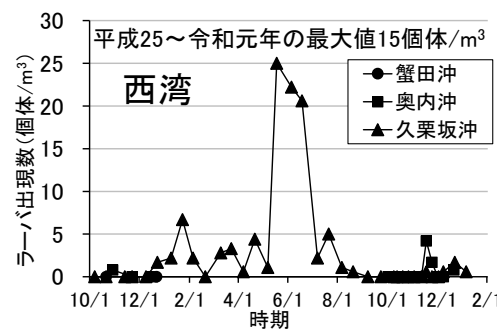


図2 ユウレイボヤ ラーバ 出現数の推移 (令和元年10月~令和3年1月)

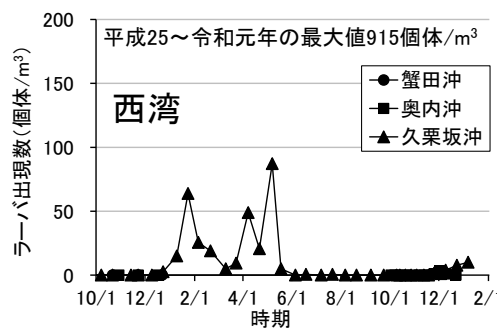
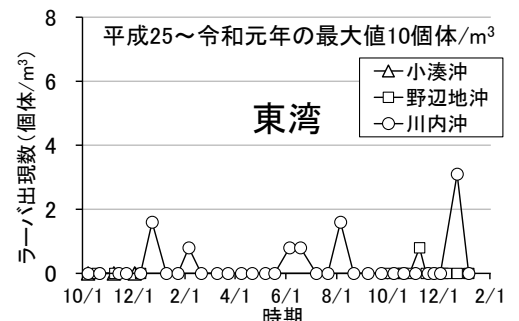


図3 キヌマトイガイ ラーバ 出現数の推移 (令和元年10月~令和3年1月)

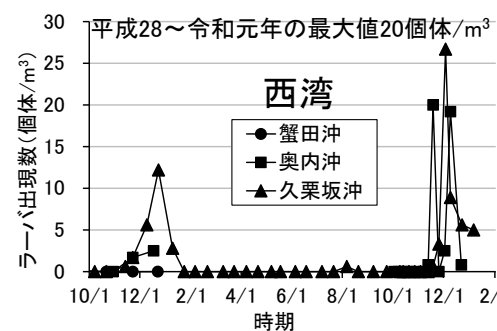
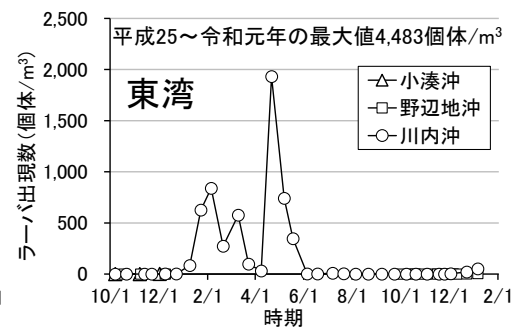


図4 マボヤ ラーバ 出現数の推移 (令和元年10月~令和3年1月)

